

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ三崎			
○保護者評価実施期間	2025年12月11日		～	2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年12月11日		～	2025年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月10日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携やコミュニケーションが充実しています。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の活動の様子を、連絡システム(写真4枚、文章)で連絡している。毎日保護者がお迎えに来られるので、その際の意見交換等で信頼を得ています。 よく家庭から返信をしていただくので、家庭や園での様子を把握することにもつながっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 返信を寄せていただけるご家庭が増えてきており、とてもうれしく思っています。さらに多くのご家庭から双方のやり取りを得られるよう努めています。 そのためにご家族の了解を得ながら、「返信内容」を他の家庭にお示しし、双方の楽しさや効果をお伝えしていきます。
2	児童発達支援の子たちの利用が増えていくことを、年上の子たちにとっても意義のあることにできるよう工夫しています。	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援の利用者が増えることを生かし、年上の小学生との交流場面を増やし、年上の子たちから多くのことを学ぶことができるよう配慮しています。 小学生・中学生にとっても、年下の子に配慮したり、教えてあげる経験から多く気づきを得られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢、異学年の子どもたちの交流には、お互いの成長発達に大きな意義があることがわかってきました。学校休業日等のお出かけでは兄や姉のように園児に対して気遣う小中学生の姿が見られます。 特に集団活動の場面において、お互いのかかわり意図的に構成していきます。
3	児童発達支援の利用者の声に応じて、遊具や玩具を整えてきました。	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援の利用者は放課後等デイサービスの子より早く来所できるため、「個別課題の時間」の教材となる遊具玩具を可能な範囲で増やしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 来所したすぐの時間は「個別課題」に取り組む時間としています。児童発達支援の子たちは特に「一人遊び」を通してこの時間を過ごしてきています。 複数の子どもたちが利用するようになり、さらに今後もこの世代は増えていきますので、お互いにかかわりあうことで活動を構成することができるようになります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・「保護者の会」など保護者同士の交流企画が整っていません。	<ul style="list-style-type: none"> 開所2年目を迎えるが、これまで支援プログラムの定着に力を注いでいたため、事業所対各家庭の意思疎通に向けての工夫改善に時間を多く割っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後個々の家庭との連絡調整を進め、ご意見を伺いながら保護者同士の交流を図ることができるよう検討していきます。(継続課題)
2	・「集団活動」の時間と児童発達支援の利用者の利用時間について工夫が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> 「個別課題の時間」「自由遊びの時間」の後に、「活動の時間」を設定していますが、これまでは保育園児一人の利用でしたので17時開始としていました。 新しく来た一人の子は、「暗くなるのが怖い」ということで活動時間の柔軟な設定が必要となってきました。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日18時にどの子どもも「送迎車」でご自宅へ送っていきます。今回のケースを検討し、二人の子たちはそれぞれ17時30分、16時30分にご家族がお迎えに来ていただくことにしました。 全体の固定プログラム枠についても、柔軟に対応することができるものに検討しなおしていきます。
3	・複数の指導員の入れ替えに伴い、児童福祉の経験の少ない指導員がさらに増えました。	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場や子育ての経験はあるものの、保育園・幼稚園・児童発達支援施設での経験のない指導員がいます。 保育士の資格のある指導員の経験や見立てを生かすような研修や意見交換の場が少ないと言えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援にとどまらず、放課後等デイサービスの利用児童も含めて、具体的に個々の状況を語り合う中で有効な手立てを見つけていきます。